奈良県橿原市　国の登録有形文化財

浄楽寺　総合調査報告書　浄楽寺説明会の記録

－宝物･什器－

2024 年 10 月 26 日　場所：浄楽寺本堂

宝物・什器

今回は、古い資料からリストを作り、今あるもの、ないものを確認し、あるものの保存状態を調査しました。

今日の住職の読経のなかで響いていた磬【きん】（図 11）は、資料にある寸法に該当する大きさではなかったものの「丙文政九年戌正月吉日、施主大西甚太郎」の銘が合致し、現物が確認できました。

資料の中にご本尊の作者の銘が２通りありましたが、鈴木先生の調査から仏師康雲であることがわかりました。

報告書 53-6 頁の表で左端の●は残っているものです。経年劣化で交換して当時のものが残っていないことも多いです。堂内で姿が見えなかった鶴形輪灯一基が床下から見つかったり、本尊の御具足（香炉、花入れ等）の数が合わなかったりする例もありました。

最後に、小さなお宝として、九条関白殿の三部経の木箱の蓋だけがみつかりました。これは、幕末の尊王攘夷運動のときに資金調達のために九条関白が真宗寺院両派の合計２万ヶ寺に売らせたお経だそうですが、そのお経も箱も今はほとんど残っていないとのことですので、これは貴重かも知れません。

（有限会社ワーク　二宮章）